

カルシフィラキシスによる難治性創傷の透析患者に対してLDLアフェレーシスを施行した症例

(医) 宝池会 吉川内科医院 ME部 同診療部(1)

○松下雄太・西後孝弘・小山裕未・加藤秀美・十萬景子・藤井茂人・矢野晃司・

開発あやこ・村石州啓・大前清嗣(1)・箕輪久(1)・吉川尚男(1)・吉川昌男(1)

【目的】

難治性創傷を有する透析患者に対し LDL アフェレーシス (以下 LDL-A) 治療を施行した症例を報告する。

【方法】

LDL-A 治療を 2 回/週とし、その後 1 回/週の合計 10 回で開始した。LDL-A 前と後でのフィブリノーゲン、LDL-Cho、前値の Ca・IP 値を比較検討した。また、SPP 検査を初回、5 回目、10 回目に行い、ポケット LDF (JMS 社製) も装着し血流状態と治癒状態を検証した。

【対象】

64 歳男性、透析歴 21 年 5 ヶ月、原疾患不明、杏林大学病院にて生検を行いカルシフィラキシスと診断される。

【結果】

週 2 回の LDL-A を行うことでフィブリノーゲン前値は 343mg/dl、285 mg/dl と低下傾向を示しており、その後週 1 回の LDL-A では 314mg/dl と上昇し高めに推移した。

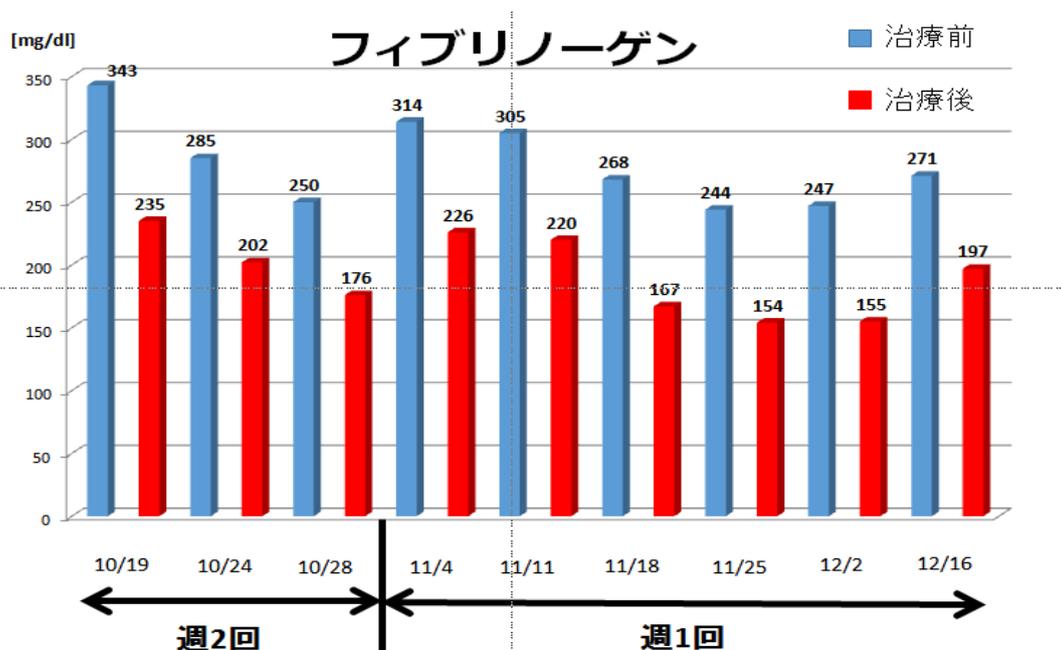


図 1

LDL-Cho では開始時 127 mg/dl から治療終了時には 34 mg/dl と低下した。

Caは6.8 mg/dl から 7.7 mg/dl、IPは5.5mg/dl から 5.2mg/dl と正常基準内となった。

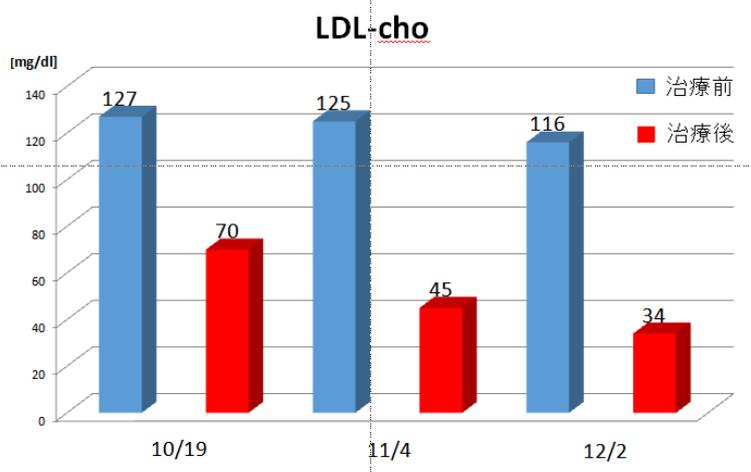


図 2

ポケット LDF は治療後に上昇した。SPP 値では右足背のみ低下傾向を示した。

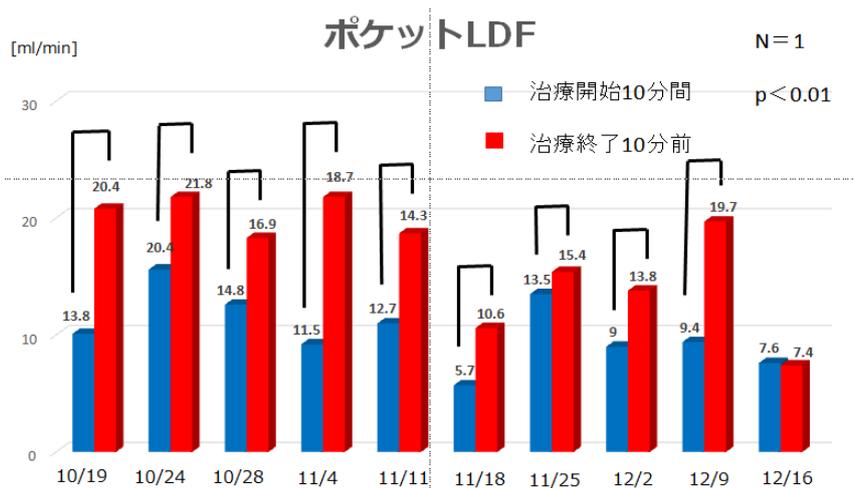


図 3

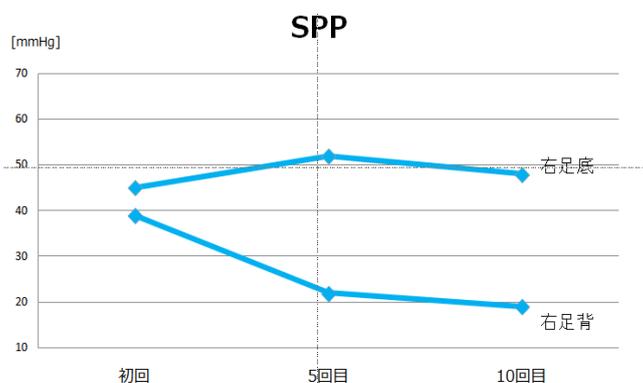


図 4

創状況



0病日

右下腿に5cm×2.5cmの痲皮形成



19病日

右下腿痲皮部に一部潰瘍化し、
圧痛を著明に認める

図 5



71病日

図 6



146病日

他院で皮膚移植し当院で再開時の創状況

当院で148病日よりLDL-Aを継続

図 7



224病日

図 8

【考察】

週2回のLDL-Aを施行することでフィブリノーゲンのリバウンドを抑制することが可能となり下肢血流が改善し創傷治癒に繋がったと考えられた。

SPP 値の低下に関しては、カルシフィラキシスによる血管の石灰化が進行しているため、低下傾向を示したと考えられた。フィブリノーゲン・LDL-Choの低下により下肢血流が改善しポケットLDFの上昇に繋がったと考えられた。

【結語】

カルシフィラキシスによる創傷治療には短期集中したLDL-A治療が有効と示唆された。